

宮崎市立赤江中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

- ・ 学力テストの平均で比較すると、各教科でも全体でも県の平均を上回っている。ただ、教科毎に細かく見ていくと、次のような点が落ち込んでおり今後の課題と考えられる。
 [国語] 特に書く力と言語についての知識・理解、技能が落ち込んでいる。
 [数学] 数学的な見方・考え方、そして応用力が落ち込んでいる。
 [英語] 言語文化の理解と表現力が落ち込んでいる。
 [理科] 科学的な思考の分野の成績が低い。
 [社会] 応用力がやや落ち込んでいる。
- ・ 全体的に基礎基本は概ね定着しているようだが、応用力がまだまだ身に付いていない傾向にあり、一歩進んだ発展的な学習などの必要性を感じる結果であった。

(2) 意識調査結果からの課題

- ・ 県の平均と本校の実態を比較すると、「学びの基礎力」は全体的に県平均よりもやや低く「生きる力」は「心の豊かさ」を除いて県平均を上回っている。細かく見ると、「学びに向かう力」や「自ら学ぶ力」「学びを律する力」などが本校ではポイントが低い傾向にある。
 また、右の表のように読書量や学習時間が少なく、テレビを見たりゲームをする時間が多いことがよくわかる。
 つまり向上心を持って学習計画を立て、時間を有効に使って自宅で学習や読書に取り組む習慣が身に付いていない生徒が多いという現状である。
 学校だけでなく、家庭と協力しながら家庭での過ごし方や家庭学習の進め方についても研究していく必要がある。

学習意識調査の概要

		県	本校
学びの基礎力	(全体)	60.2	58.7
	豊かな基礎体験	53.6	56.6
	学びに向かう力	75.0	72.3
	自ら学ぶ力	56.7	51.2
生きる力	学びを律する力	60.5	57.4
	(全体)	55.7	57.0
読書習慣 学習時間	読書(1ヶ月に読む本の平均冊数)	3.7	2.8
	学習時間(平日・分)	96.2	85.8
	学習時間(休日・分)	103	76.3
TVをみる時間	TVをみる時間(平日)	98.9	109
	TVをみる時間(休日)	141	145
ゲームをする時間	ゲームをする時間(平日)	17.9	22.9
	ゲームをする時間(休日)	49.2	51.1

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

本校は学力向上に向けて何か新しい試みをするのではなく、基本的に「授業で勝負」という考えから、日頃の1時間1時間の授業の充実にもっと力を入れている。各教科の担当が、生徒の実態に合わせて分かりやすい授業を目指し、毎時間工夫しながら取り組んでいる。また、「学習態度コンクール」「姿勢指導週間」などを設け、生徒会の活動とタイアップしながらより良い学習習慣の確立・定着を目指している。

また、授業を効果的に行うためには生徒が落ち着いた学校生活をおくることが何よりも大切であるので、本校の生徒指導の方針でもある「排除せず 迎え入れ 抱え込む生徒指導」「厳しさの中にも 温もりのある生徒指導」を全職員で行うよう努力している。

(2) 教育課程内の取組

① 各教科の授業の充実

とにかく毎時間の授業を充実させることを大切にしている。そのために、パソコンやプロジェクトターの活用も含めて教材や教材提示の工夫を行い、分かりやすい授業を目指している。

② 少人数指導の充実

本校では英語、数学を全学年で少人数指導で行っている。クラスは個人の実態に合わせて習熟度別に分け、特に基礎・基本の定着を図る必要があるクラスの人数を少なくし、個人指導がより徹底するようにしている。過去には、理科（平成16年度）社会科（平成17年度）も実施しており、成果を上げている。

（3）教育課程外の取組

① 朝自習の時間を利用しての読書、基礎事項の復習

1年生と2年生の12月までは、授業が始まるまでの時間を利用して読書を行っている。職員朝会の無い火曜と木曜は、学級担任も一緒に学級で読書に励んでいる。2年生の1月から3年にかけては基礎・基本の確認を目的としたプリント学習に取り組んでいる。また、そのプリントは小単元毎に確認テストを行い、生徒は自分の学習をふり返り、教師はその後の生徒の指導にも役立てている。

② 夏季休業を利用したサマースクール

各学年毎に夏季休業中に6～10日ほど補充学習を主な目的として、サマースクールを実施した。学年に応じた取組を工夫し、1年生は夏休みの課題の完成を第一に考え夏休み後半に実施した。1・2年生は、教科毎に開設された講座を希望者が申し込み参加するという形式をとった。参加者は教科や講座によって様々であったが、参加者には好評であった。

③ 放課後の補充学習

各学年・各教科で実状に併せて実施している。3年生は6月の中体連終了から夏季休業に入る前の約1か月、5教科で曜日を決めて補充学習を放課後30分程度、希望制で行った。また、英語検定の前には多くの生徒が放課後の勉強に熱心に取り組んでいた。

（4）保護者・家庭・地域との連携

① 教育相談の充実

意識調査の結果にもあるが、家庭学習も含めた家庭での過ごし方が大切であるため、その実態の把握や指導のために教育相談は不可欠である。4月当初の家庭訪問以外に、夏季休業を利用して全校生徒を対象に三者面談を行った。その中には、生徒本人の悩みや保護者の悩みなどに対応するため、学級担任が窓口となりスクールカウンセラーとの相談をもつケースもあった。

② スクールカウンセラーとの協力

学力の向上のためには学校生活が充実することが大切であると考え、学校生活に関するアンケートを定期的に行い生徒の悩みの実態を把握するようにしている。その際、スクールカウンセラーがアンケートの分析に加わり、様々な観点から生徒の実態把握と相談に応じてもらっている。また、夏季休業中には職員研修としてスクールカウンセラーを講師とした研修を毎年実施し、生徒理解のための示唆をいただいている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

（1）成果

基礎・基本の内容はある程度しっかりできるようになった生徒も増えた。また、教師の指導もあって英語検定や漢字検定、歴史検定や理科検定などに積極的にチャレンジしようという雰囲気ができつつある。また、図書室の整備も進み、落ち着いて読書に取り組む生徒も多くなってきた。

（2）課題

各教科において成績の上では一定の成果が上がったと考えられる。しかし、家庭学習は塾での勉強に頼り、自分で時間のやりくりをして、学習に励む習慣はまだついていない。補充学習が必要な生徒に授業の中だけの指導では不十分で、放課後の時間などを使って指導しているが、その他の生徒指導、職員研修、部活動の指導などもあって十分には行えていない。今後、時間をどう生み出すかを考えていきたい。また、新しい取組だけでなく、最も基本的な授業のさらなる充実を図りたい。